



Tosa Junior & Senior High School

振興会だより

編集責任者 広報担当 島内祥宏 発行者 振興会会長 徳永俊一

2007年(平成19年12月発行)

●第15回連絡協議会報告●

振興会副会長 島内祥宏

12月10日午後5時より、土佐中高等学校2階会議室において、学校と振興会とで定例の連絡協議会が行われました。

まず、開会にあたって徳永振興会会長より挨拶が述べられ、続いて池上校長井上教頭、三浦教頭の挨拶に続き各部より報告が行われました。

進路部より

- ・大学入試は推薦入試の合格通知が来はじめております。
- ・生徒の志望校の傾向は例年通りです。昨年のような結果が残せる事を期待しています。

生徒部より

- ・携帯電話の学校への持ち込みに関し、勉強への集中という意味で、特別な場合を除き、持ち込み禁止という事に変更はありません。

図書部より

- ・今年図書部で購入した雑誌の古くなったものを無料配布したところ好評でした。今後も続けていきたいと思えます。

環境部より

- ・女子の下宿の再調査を10月に行い、下宿に関する生きた情報がうまく学校に入っていない事が分かりました。1月に再び調査を行う予定です。

特活部より

- ・現在クラブに所属している生徒は

男女平均して、運動部が全生徒の49.7%、文化部が20.2%でした。

広報部より

- ・工事現場の状況は土佐校のHPに掲載しており、写真も山口先生が毎日更新して下さっております。その後、質疑応答で、北村副会長よりTSLの現状と今後の予定について質問があり、今後も継続したいが内容については検討中であるとの回答が学校側よりありました。

また、島内副会長より「校舎建築に関し、工事監理体制の確認を工事監理者(CM会社、設計事務所)に対して行い、監理報告を確実にしてもらう必要があるのではないか」という意見が述べられました。

最後に、お忙しい中参加して下さいました先生方にお礼を申し上げますとともに、今後も学校と振興会(保護者)が信頼関係を築きながら、よりよい学校環境作りが出来るような交流の機会を設けていただけることをお願いいたします。



学校の奨学金制度が新設されました

- 経済的な理由で本校への進学が困難な生徒に、毎月の学納金の大半を貸与する新しい本校独自の奨学金制度が平成20年度から始まります。
- 本校在学中に、家計の急な変化により、本校で学業を継続することが困難になった生徒に対しては、他

の奨学金が受けられるようになるまで、毎月の学納金相当の全額を支給します。

- 高校では、大学の予約奨学金を含め、学生支援機構をはじめとする各種の奨学金の紹介及び手続きの支援をしています。

思えば本当に軽い気持ちでお引き受けさせていただいた本部役員の席に、何と8年もの長い間居座ってしまいました。平成12年、長男が中2の時からです。その間にはここでは書ききれないほどの様々なことがありました。

池上校長先生は事あるたびに、振興会を大変大切に下さったので、お陰様で振興会は深く学校に関わらせていただけたと感謝しております。私たち本部役員もそれに応えるべく、しかし、イエスマンではなく是非々に事に当たって参りました。厳しい注文をつけたこともありましたが、その度に校長、教頭先生を始め、教職員の皆様が一生涯懸命、土佐の教育の振興に心を砕いて下さいました。ここであらためて、会員の皆様にお知らせし、皆様と共に感謝申し上げます。

有難うございました。

さて、本部の振興会活動の広報に力を入れようと国見会長時代に始まったこの「振興会だより」も年2回の発行で15号と

なりません。教職員プロフィールも学校広報の先生方のご協力も継続しております。現徳永会長も会員の皆様と学校をつなぐパイプ役として惜しみない努力をされました。それは今後も引き継がれ、本部役員は、会員の皆様のご理解とご協力をいただきながら、「学校と共に歩む振興会」を継承してまいりますので、どうか宜しくお願い致します。

私事ですが、かつて私も6年間生徒として土佐校に在籍し、青春時代を過ごしました。そして、この9年間は子供と共に二度目の青春を味わうことが出来ました。それもこれも会員の皆様のご支援のもと振興会活動に関わらせていただいたお陰と心から感謝しております。校長先生、教頭先生、教職員の皆様、本部役員の皆様、会員の皆様、本当に有難うございました。来春下の子が卒業し、私も副会長を引退致しますが、今後とも土佐校の繁栄を願う応援団の一人であり続けたいと思っております。

8年間の振興会活動を振り返って

振興会副会長 北村恵美子

カリスマも来た!
ピアニストも来た!
お笑い芸人さんも来た!
こじやんと多彩な
土佐校生活。



学校カランキングで、 本校が全国第17位に!

「入りやすくお得な学校」、「有力大学合格力の絶対評価」、「現役突破力で国公立トップグループを攻略」という『宝島社』独自の3つのポイントから評価した実力中高一貫校カランキングを合体させた総合カランキングで、本校が全国第17位に選ばれております。興味のある方は、別冊宝島「07~08年版 全国・中高一貫「学校力」カランキング」をご覧ください。

- 新理事長就任挨拶
- 校長室だより
- 振興会会長挨拶
- 新校舎工事現場から
- 学校説明会 今年も大盛況!
- 英語弁論大会入賞者が続々!
- 西谷先生講演会
- 高1夏季勉強合宿
- 文化行事「青島広志のペール・ギュント」
- 『スクールパラダイス』撮影隊、来校
- 第15回 連絡協議会 報告
- 学校の奨学金制度が新設されました
- あとがき

理事長就任のっ挨拶

理事長 宮地貫一



実りの秋を迎えて、同窓会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のことと存じます。この度、新生「土佐」の誕生に向けて、ご尽力下さいました川崎幾三郎理事長が、平成19年9月6日の理事会におかれまして、ご自身の体調調のこともありご退任の意向を示されました。

その席で、私に理事長就任のご推挙をいただき、理事会の御賛同を受けまして、第10代目となる理事長を引き継ぐこととなりました。その使命と責任の重さに身の引き締る思いで一杯でございます。

川崎幾三郎氏には、3度にわたり四半世紀もの間、理事長として学校の節目となる大事な時に大変お世話になりました。このことは、本当に筆舌に尽くしがたいものがございます。これからも、養生につとめられまして、この新校舎建築プロジェクト

トの完成をお見守りいただきたいと念願しております。我が愛する土佐中・高等学校のために、少しでもお役に立つならばと思ひ、お引き受けをいたしました以上、土佐中・高の更なる発展のために全力を傾けていく決意を新たにいたしております。

9月19日には、池上校長とともに、本校創立者の川崎家、宇田家ご両家の墓前にご報告するとともに、翌20日には、県内の各方面のお世話になる方々にもご挨拶

に廻るなど具体的な行動を起こしているところでございます。

当面の最大の目標であります新校舎建築の大プロジェクトは、学校、振興会、同窓会が一体となってやりとげる決意と、そのための具体的な行動が必要であり、そこにおのずから道が拓けて行くものと確信しております。同窓生の皆様方の熱い御力添え、御支援を期待いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

先日、四国の私学の教育関係の方々を集まる会合に参加いたしました。その席でのこと。

高知の教育界のある重鎮の方がおっしゃるには、「私は土佐校の校風が好きだ。校舎が新しくなっても、土佐校の校風は変わらないで欲しい：」「土佐校生は、高校時代は少しのんびりしているが、社会に出てから大きく伸びる：」私は少し面映い感じでお話を聞かせていただきました。

今、私の手元に「土佐の群像」という小冊子があります。10年程前に、振興会が同窓会にご協力を頂いて作成したものです。

その中には、開校以来各界で活躍されている同窓生の皆さんが紹介されています。政界・実業界で、大学・その他教育機関で、芸術・文芸で、行政・公共機関で活躍の方々、又、小さいながらもキラリと光るようなご商売をされている方々など、本当に多彩な分野で多くの同窓生の皆様それぞれの同級生より推薦され、その活躍の様子が書かれています。

それぞれの方が、土佐校時代に、

自由な校風の中でそれぞれの価値観を育まれ、実社会において社会に貢献されております。

現在、在学中の皆様方のお子様たちは、本当に大きな可能性を持った、かけがえない存在です。彼らもまた先輩方に続き、それぞれの分野において大きく成長し、社会に貢献する人材に育って行くことでしょう。

私は振興会会長として、この2年間、保護者の皆様や同窓生の皆様、そしてまた多くのお世話になった方々を通じて、その事をあらためて実感しました。来年の3月、会長任期を終えましたが、皆様方と一緒に、これから果立っていく同窓生を暖かく見守ってゆきたいと思っております。

終わりに、この2年間、振興会のお世話をさせて頂きました間の、保護者の皆様のご理解とご協力に心より感謝いたします。時には方向を示して頂き、時には背中も押していただきました。少し早めのご挨拶ですが、その気持ちを伝えまして、ご挨拶に代えさせて頂きます。

本当にありがとうございました。

校長室だより

学校長 池上武雄



師走の候 振興会の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は学校運営に格別のご支援、ご協力を賜り有難く御礼申し上げます。

一、新校舎建築募金への協力で感謝

本年1月、新校舎建築募金委員会(委員長岡内紀雄氏)が振興会・同窓会・学校からの委員構成で発足、4月から募金活動が始められました。振興会様からは早速これ迄平成15年度から積立て下さった2千万円を、また8支部様からは支部剰余金の一部をご寄付いただいております。ご高配に心より感謝申し

あげます。なお11月末日現在、募金件数は1509件募金額は億一四五三万九三五円となっております。

二、新校舎建築プロジェクトの進捗状況

(一)基礎工事が順調に進んでおります
9月26日の吉日を選んで起工式が執り行われ、参加者一同心より工事の無事安全を祈願いたしました。翌日からは早速仮囲いなど仮設工事を初めとして第一期工事が始まりました。工事の推移については本校ホームページ「新校舎工事現場」を検索いただき、また、山口喜久先生が毎日現場写真を撮って載せて下さっておりますのでぜひご覧下さい。

(二)工事工程作業手順の説明は

11月末現在、旧グラウンドの中央に赤く塗られたタワー・クレーンが高々と立って作業が進められています。工事現場の回りは全て仮囲いがなされ、所々に透明の板を挟んで現場が覗ける工夫がされています。また渡り廊下前の外壁には、現在行われている工事工程作業手順等が図解、掲示されており生徒達だけでなく先生

方も休み時間には熱心に眺めている姿が見受けられます。高校教室からは建築工程が逐一見られる訳で建築関係に関心をいだく生徒さんが増えるのではないかと思います。

(三)騒音対策は

かねてより工事の騒音を心配しておりましたが、クレーン等のモーター音が続いておりますもの思っただけ程騒音は高くないと安心しておりましたところ、コンクリート杭頭処理(コンクリートを一部削る作業)で頭に響くような高い騒音が発生しました。そのままでは何日も続くようでは大変とお願いをしたところ作業場をすっぽりとテント囲いして少しでも音を低く押さえるよう工夫をしていただきました。この作業も5日程で終了し、まずは一安心というところですが、なお中間審査の中で英語のリスニングの試験時は全工事を一時ストップして差支えないよう配慮もお願いいたしました。

(四)新グラウンドへの送り迎えは

男子体育の授業を新グラウンドで行うことから往復の移動をバス2台で行っております。生徒達もようやく慣れて休み時間10

分の間での安全輸送も順調に行われております。2カ年にわたる工事期間中はずっと実施して参ります。

三、二学期は諸行事が盛沢山です

(一)9月23日、好天に恵まれ大運動会が開催され、中高全生徒1,670余名が心を一つに全力を傾注いたしました。高二生苦心の櫓も、高二生苦勞のホームゲームもともに申し分なく好評でした。早朝から応援にお越しいただいた保護者の皆様を含め皆が満足し楽しんで大運動会だったことを喜んでおります。

(二)11月3日、オーケストラ部と

一部吹奏楽部員賛助の皆さんによる、第15回オーケストラ定期演奏会が「かるぼ」と大ホールで行われました。大勢のご来場の皆様の前でオーケストラ部・吹奏楽部の皆さんは日頃の練習の成果を存分に発揮してくれました。ラフマニノフのピアノ協奏曲第二番ハ短調で安並慎一郎君(高一)が見事なピアノ演奏を披露いたしました。

(三)本年度の文化行事は、11月

13日青島広志氏ほか3名のエンターティナーによる「青島広志のペー・ル・ギョント」と題した楽しい音楽劇やおしゃべりに中高生全員が大いに盛り上がりました。

(四)11月20日から4泊5日の高

一生修学旅行が行われ、事故もなく全員楽しい研修旅行を終わることができました。引率の先生方のご苦勞は大変なものです。本校ならではのコース別研修で格別のお世話様になった卒業生の皆様にもいつもながら心より感謝を申しあげております。

寒さに向かう折柄、皆様のご健勝を祈念申し上げ報告いたします。



土佐が生んだ代ゼミ・カリスマ講師

西谷昇二 先生 講演会



10月27日(土)午後代々木ゼミナールの英語講師(本校50回生)西谷昇二先生の進学校講演会があり、高2生約100人が参加しました。

In dreams begin the responsibilities. という英語から始まり、土佐高時代にサッカー部のキャプテンをやっていたこと、高校2年のときに家出をしたこと、大学時代にぶらりと北に旅に出かけて青森で残り35円になったこと、北海道の牛を見て感動したこと……、様々なことを話して頂きました。

I think that that that that that student wrote on the blackboard was wrong.

というthatが5連続で登場する文や、東大、早稲田の過去問を例に挙げて、英語の講義もして頂きました。

特に単語のもつコア(核)の部分の意味を教えていただいたのが印象に残りました。50代には見えない魅力的なルックスもかっこよかったです。

参加した人は、とてもいい刺激になったと思います。これからも進学講演会は積極的に参加をしてください。先生の著書「壁を越える技術」がサンマーク出版から出ています。終わりに、生徒の感想を紹介します。

今日の西谷先生のお話は本当に私にとって貴重なものとなりました。高校時代、大学時代、大人になってからも豊かな人生経験を得た西谷先生のお話だからこそ、こんなにも説得力があり、私の心に響くのでしょう。

お話の中に「内蔵感覚」という言葉が何度も出てきました。「内蔵感覚で生きている時、人は風の声を聞く。」やはり、孤独な時間と向き合うことが重要なのだと私に教えてくれたような気がします。受験という否定的な力を、自分が孤独と向き合う時間ととらえて、苦しいことから逃げようとせず、挑戦する気持ちを持ち続け、がんばっていきたいです。力がわいてきました。(高2学年通信より)



学校説明会 今年も大盛況

広報部長 小村 彰 先生

10月21日(日)に中学校の学校説明会を開催しました。例年より多くの椅子を準備したのですが、開始の10時前には広い体育館がほぼ満員に。結局、生徒・保護者あわせて110名近くの参加者がありました。

内容は例年通り、吹奏楽部の歓迎演奏でスタートし、校長挨拶のあと、生徒代表挨拶・学校紹介・入試説明、さらに中1生と外国人教員による英語の模擬授業という構成でした。学校紹介や教務部長・各教科主任による入試説明も好評でしたが、参加者に「土佐」をもっともアピールしたのは、手伝いの生徒も含め、生徒の活き活きとした挨拶・スピーチ・英語発表でした。回収したアンケートには、自由記述であるにもかかわらず、そういったことばがたくさん書かれていました。前後して開催した高校説明会や、安芸、土佐・須崎、幡多の各地区説明会のアンケートでも、同じような回答が多く、それぞれの説明会に

にもかかわらず、そうといったことばがたくさん書かれていました。前後して開催した高校説明会や、安芸、土佐・須崎、幡多の各地区説明会のアンケートでも、同じような回答が多く、それぞれの説明会に



ボランティアで協力してくれた生徒の皆さんには本当に感謝しています。いつも思うのですが、学校をわかってもらうために効果があるのは、どんな宣伝の言葉よりも、生徒の実際の姿であり、それに基づく生徒及び保護者による学校の評価です。その点で、今年は卒業した82回生の大学受験の結果が極めてよかったこともあって、生徒募集活動も非常にやりやすかったというのが本音です。いろいろな意味で学校が元気であること、それが募集活動の最大の力になるというのが、5年間の広報活動を通しての実感です。生徒・保護者・教職員が心を通わせ、ますます元氣な「土佐」になっていくことを願ってやみません。

英語弁論大会入賞者が続々!

11月16日 高知大朝倉キャンパスにて行われた、第60回県中学・高校英語弁論大会で、本校生徒が多数入賞いたしました。各部門の入賞者の皆さんは以下のとおりです。おめでとうございます!(11月14日 高知新聞参照)

- 【中学1年】 優勝 吉本史菜さん
- 【中学2年】 第三位 勝賀瀬智大くん
- 【中学3年暗唱】 第三位 服部雄人くん
- 【中学3年スピーチ】 優勝 西岡由実さん
- 【高校生】 優勝 井上愛さん
- 【高校生】 第二位 井澤尚子さん



トム先生 & 高橋さん

また、それ以前の10月7日には、高円宮杯 第59回 全日本中学校英語弁論大会 高知県予選が行われ、ハイレベルな争いのなか、出場した本校中学3年生は見事に全員入賞しました。結果は、下記のとおりです。おめでとうございます!

- 【弁論の部】 最優秀 高橋彩さん
- 【暗唱の部】 最優秀 林真純さん
- 読売賞 池島可南子さん

Tom's comments

The speech contest was a great success! The competition was good, but all three of the Tosa students stood out as excellent speakers! Kanako Ikejima's speech about global warming was powerful and her punctuation was great. Masumi Hayashi's story about a tough old granny made many people laugh! She is a talented actress. Finally Aya Takahashi's first prize in the speech was really special. She spoke from her own experience with honesty and passion. It was a good day for all of us!

この大会には弁論の部と暗唱の部があり、弁論の部のみ全国大会へつながります(ただし全国大会に出場できるのは各校1名のみ)。夏休み前に参加希望者を募り、夏休み中から準備を始めました。中でも、高橋さんは最優秀に輝き、11月24日に東京・よみうりホールで行われた決勝大会に出場されました。(土佐校HPより転載)

スクールパラダイス 撮影隊 来校!!

中2主任 円山健太郎 先生



スカイパーフェクトTVのベネッセチャンネルに「スクールパラダイス」という番組があります。全国の中学校の授業や部活動、生徒の様子などを紹介するものです。先日その撮影が行われました。タレントのビクスモールンが来校し、主に中学2年生を対象にしてにぎやかに撮影は進みました。まず、授業風景は3時間目に2年C組の「美術」の時間、粘土で友達顔を作成する様子を撮影し、4時間目は1年C組の「幾何」の授業を川崎先生の協力で行いました。タレントに質問され、戸惑う場面もありましたが、委員長が歓迎のことばを述べたが、委員長が歓迎のことばを述べたなど突然の訪問を生徒達も楽しんでいました。

午後からは、2年生約260名を対象にした「〇×意識調査」や「芸披露」コーナーの撮影がありました。事前に行なった校内予選を突破した生徒が、緊張した表情で特技?を披露しました。放課後はオーケストラ部とハンドボール部が取材を受けました。契約していないと番組は見られませんが、放送は11月20日でした。何度か再放送もされるようです。まじめに勉強に打ち込む姿などは一切ありませんが、本校中学生の若さあふれるエネルギーは十分伝えられたのではないかと思います。

「高1の夏に勉強漬けの3日間を!!」をキャッチフレーズに取り組んだ勉強合宿は、おそらく土佐高史上初めての「県外校との他流試合」の形式も取り入れた試みでもありません。『土佐高に在る』にふさわしい自学自習の習慣を培うこと、自分自身の限界に挑むことに加え、6年間ほぼ同じメンバー（高1で57名のNPを迎えはしましたが）と学ぶ事がもつ『井の中の蛙大海を知らず』に陥りやすいという欠点を補うことをも目標としたものでした。合宿では、のべ49時間の津山市滞在中に20時間40分の勉強をこなすという、かなり非日常の体験を102名（85回生在籍数は313名です）が共有しました。

最初は、「もういやだあ〜！早く帰りたい」と悲鳴を上げていた生徒たちも、90分×3コマ、80分×5コマというハードな自習や、80分×5コマの超高速英語授業を姿勢を崩すことなく受け続ける作陽高校S特の生徒たちから強烈な刺激を受け、土佐中高文化が身体の中まで染み込んでいる自分たちの持つ弱点（『爆発的瞬発力は持つが恒常的持続力に欠ける』）を学び、勉強合宿を少しでも有意義なものにできるようにそれぞれなりに努力する存在に成長してくれたように感じています。主任団の大胆かつ勢いにもまかせたこの企画（中3時の主任の一人である角屋彰一先生が岡山県作陽高校へ籍を移したことをプラスに転じさせようという発想からスタートした企画です）は、positive & activeをモットーとする85回生が、ますますその輝きを増すための貴重な体験となったと信じています。なお、勉強合宿を通じてできた作陽高校S特の先生方との互いの学校の力を育むための交流は現在進行形で続いています。そして、こ



れからも、85回生学年団の独創的な取り組みは続いていきます。最後に、合宿参加者の感想をいくつか紹介します。

● 今回の合宿で、「夏休みだから勉強は…」と思って怠けていた自分がどれだけ甘かったかを思い知った。作陽のS特の生徒は全員が真剣に勉強に取り組んでおり、学力も土佐のトップレベルに負けず劣らずであった。自分も文武両道を目指すためにも、作陽の生徒を見習っていきたい。今回の合宿で受けた刺激を忘れず、しっかりと努力していきたい。

● 田平先生のひと言ひと言がとても重く感じられた。「まあえーがー、その一言であと一年!!!」まさにそうだと思った。全国レベルの授業を受け、あらためて自分の甘さがわかった。でも、田平先生の授業を受けられて本当によかったと思う。最初は行きたくなかったけど、制服を着て、他の学校へ行って、違う先生の授業を受けることができて、本当に行つてよかったと思った。

平成19年度 土佐校文化行事

「青島広志のペール・ギュント」

中1生徒の感想から

11月13日、今年度の文化行事として「青島広志のペール・ギュント」が開催されました。中学1年生から高校3年生まで全員が体育館に集まって1時間半の鑑賞。

5人でパイプいす4つと教壇だけのステージ。青島さんが若くてお金がなかった時、いろんな舞台を観た経験がいかにされているそうです。それでも、ペール・ギュントを体育館で行うこととはなそうです。出演者の1人ソプラノの江口二美さんの11月12日のブログでも「ペールはいろいろ仕込みが多いから、ホール以外でどうなるかと思いましたが……」と書かれていました。困難な場所での講演にもかかわらず、私たちのためにいろいろ工夫して頂きました。

有名な曲をたくさん折り込みながら、踊りながらの歌、そして青島さんの軽快な口調で解説。まさにオペラへの楽しい導入をしていただきました。

青島さんが「もし海外とかで見て声をかけてくれたら、あの時の土佐校生ですと言つてくれたら、5人までならごちそう



青島広志さん、舞台監督の安藤應次郎さん、ソプラノの江口二美さん、横山美奈さん、テノールの小野應次郎さん、本当にありがとございました。これからの活躍を生徒・教職員一同、心からお祈りしております。

「ペール・ギュント」はノルウェーに古くから伝わる童話の主人公で、常に空想の世界をさまよひ、永遠の女性に救いを求めるといった人間の弱さを浮き彫りにした人物です。（土佐校ホームページより転載）

青島さんが弾くピアノは、すごいものだった。軽やかだったり、いろんなことが表現できていた。そのメロディーも聞くだけで今どんな場面なのかが分かった。青島さんは、ただ単に面白いだけの人じゃないことが分かった。歌は、みんなうまくて驚いた。体育館中に音が響いてすごかった。どこやったらあんなにキレイな音がでるのだろうと思った。耳がキーンと鳴るくらい響いていたし、しかも上手くハモれていた。人生のうちで、こんなすごいモノを見せてもらえない経験が出来て、嬉しかった。

青島さんが出てきた時、思わず「ああ〜テレビで見たことあるー」と言ってしまう。初めて本格的なものを見る感じができました。歌声によって、喜怒哀楽を表わすことができるんだなと思いました。楽しかったです。合唱「コンクールがんばろー」と思いました。



あのソプラノの女の人の声はきれいで、聞いていて飽きなかった。アルトの男の人は迫力があって、演技も上手だった。あの三人は、どこまで声が響くのだろうと思うくらいすごかった。やっぱりプロは違う。合唱「コンクールもあんな声が出せれば……」。「非日常」の体験は、とても刺激的で楽しかった。

新校舎工事現場から

清水・新進特定建設工事共同企業体
現場代理人 越智 光徳

土佐中・高新校舎建設現場は、現在ステツプ1の工事中で、運動場であったスペースに、体育館棟と校舎棟を並行して建設しています。建物を支えるため、地中の固い地層まで杭を打設し（約30m）、基礎掘削、基礎躯体工事を進めてきました。

本工事は、新築引越し解体が2サイクルある、非常に稀な現場です。また、地震時建物の揺れ等を軽減する免震構造、柱間の大スパンをとばすプレストレス構造、プレキャスト構造、大トラス構造など、難易度の高い工事があります。構工法や施工技術検討を、設計事務所さんと打ち合わせしながら進めています。

工事現場は、いわゆる元請け（今回は共同企業体）であるゼネコンと、専門技術をもった協力会社との連携で工事を進めます。契約書や設計図を読み取り、詳細寸法等の入った施工図や、工程表、施工計画書、予算書、注文書等を作成し、各協力会社に工事をお願いします。昨今専門の技能工不足が問題になっていますが、幸い高知にはまだこだわりをもった技術者が多く残っており、新しい技術に挑戦している若手もいます。しかし、建設現場に必要な技術は様々で、測量、重量物運搬据付、コンクリート、鉄、アルミ、木、塗料等々、専門用語の辞書が出版されているほどです。また、3次元CADのようなハイテク、コンクリート打ちのようなローテクが混在しています。このように混沌とした工事現場を、いかに効率よく、納まりよく組み立てていくかが、アイデアの勝負となります。ひたすら、最適解に向けて努力してまいります。土佐中高の生徒さんも、将来是非、建設現場でものづくりに挑戦していただきたいと思えます。ものづくりはすなわち人づくりなのです。

工事中は騒音、振動等、何かとご迷惑、ご不便をおかけしますが、ご理解をいただき、また、お気づきの点がありましたら、ご指導よろしくお願いたします。